# 神戸市立井吹東小学校　学校評価報告書

校園長名　　　　　　　　　　記入者名

| 学校づくりの目標 | Smile Powaerful Challenge を合言葉に元気に笑顔であいさつできる子、自信をもって行動する子、進んでチャレンジする子を目指して取り組んでいる。3年間家庭科教育を中心に研修を行っている。子供たち一人一人はとても良いものを持っているが、全体の場ではその力を出すことを恐れる子が多い。そこで、研究テーマを「これからの社会を共に生きる力を育む～体験・体得・体現～」と設定し、生きる力をしっかりと身につけさせたいと考えた。そのために、様々な体験をすることで、失敗することは大事なことであることを意識させ、体験を通しながら自分の考えをもち、友達と意見を交換させ、体得していく。その体得したことを将来にわたって家族や地域にかえしていく体現できるように取り組んでいる。一人一人が輝いて活動できるように職員一同コミュニケーションをしっかりとって、未来を担っていく心優しい井吹東っ子を育てていく。 |
|---|---|

| | 内容 | 重点的な取組み | 評点<br>（4段階） | 特記事項<br>（学校自己評価） | 関係者評価<br>（学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等） | 学校自己評価、関係者評価を踏まえた<br>次年度の重点的な取組みの案 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 育てたい子供の姿 | 「心豊かに　たくましく　自ら学ぶ　井吹の子（Smile Powerful Challenge）」～学校大好き・友達大好き・先生大好き　笑顔あふれる井吹東小学校～ | | | | | |
| | 心豊かに（Smile）<br>☆気持ちの良い「あいさつ」「返事」ができる子 | ・学級、学年活動の充実<br>友達と共に学び合う（認め合い、励まし合う）。相手の気持ちを考え、友達の良さを認める。 | 3 | 気持ちの良い挨拶や返事ができる児童が増えている。挨拶を頑張っている児童の陰で、なかなかできない児童も一定数いる。今後も引き続き、自ら進んで挨拶をする子を高めていく。 | ここ数年は地域の挨拶にも積極性が出てきている。前よりもよくなっている。今後は朝会時に行う表彰など、他の場面での返事も頑張らせたい。 | 気持ちの良い挨拶について、一定の成果が出てきている。次年度も、今年度行った「挨拶ポイント」などの取組を継続していきたい。また、表彰の返事に関しては、事前にクラスで練習させるなどの指導の徹底を行いたい。 |
| | たくましく（Powerful）<br>☆失敗を恐れず、自信をもって行動する子 | ・励ましと評価で、達成感と自信へ<br>何事も最後までやり抜く、粘り強い強い心を育てる。 | 3 | 未経験のことにも「まずはやってみよう」と教師が仕向けることができた。成功体験が積めるように、スモールステップを設定するなどの手立てを打てた。 | 学習でも自主的に発言する姿が見られている。児童館に来る際に、地域のごみを拾う姿も見られた。「やる気」が感じられる。社会に出た際に自分で考えて生きていける子に育ってほしい。 | 失敗を恐れる姿はまだまだ色濃く残っている。教師が場を意図的に設定し、多くの児童が様々な経験を積めるようにしていく。また、その結果（成果）に対して積極的にプラスの評価を返していくことで自己肯定感を高めていきたい。 |
| | 自ら学ぶ（Challenge）<br>☆自分の考えを伝えられる子 | ・自分で考え、判断する力の育成<br>自分の言葉で話す・伝える。書く力の育成。グループ学習の活用と充実。 | 3 | 学習の中で自分の意見を発表し、友達と交流できるような場面を意図的に取り入れた。意見を伝え合う良さを感じ、ペアトークからグループ、そしてクラス全体へと広げていきたい。 | 自分学習への取組が進んでいる。うまくできる子となかなかうまくいかない子がいるが、自分からやりたいと思うことを学びにつなげていきたい。宿題をしている姿を見ても、時代とともに変化してきていることが伝わる。 | 自分学習の取組について、自分で課題を見つけ深めていけるよう指導を継続していく。今年度、上手に取り組んでいた児童のものを継続的に紹介することで効果が出てきている。発表については、ただ児童に発表をさせることを目的にするのではなく、意見を交流させることの良さや新しい気付きに繋がるよう良さに気付く指導を行うことで、児童の自主的な発表につなげていきたい。 |
| 全市的に推進すべきこと | ①いじめ防止対策に関する取組み | 日頃から児童の小さな変化にアンテナを張り、即座に対応できる環境づくりをすすめる。生指連絡会や校内いじめ問題対策委員会で、全職員が共通理解できるようにする。 | 3 | 毎月実施の校内いじめ防止・対応委員会で事案や対応について共通理解を行うことができた。事案発生時には、担任で抱え込まずに学年→総務（生指係）→管理職のルートで速やかに対応することができた。 | いじめはどこでも起こりうるもの。生指係の先生の行動力が、対応の早さや未然防止につながっている。 | 毎月実施の校内いじめ防止・対応委員会で事案や対応について共通理解を行うことは大規模校での指導のブレをなくすためにも大事にしていきたい。担任が一人で抱え込まず、報告・連絡・相談・確認を大事に学年世話、生指係、管理職が一緒に対応に当たれるよう、次年度も心掛けていく。 |
| | ②不登校支援の取組み | 担任がこまめに家庭と連絡を取り、関係性を切らない。担任、生指係を中心に朝から連絡を取り、学校に足が向きにくい児童に働きかけることで、学校に気持ちが向くようにする。 | 4 | 担任、生指係が家庭とこまめに連絡を取り、同じ方向性を向くことができた。連絡や家庭訪問等により、朝から登校できる児童が増えている。学校に来てからも居場所を作ることで、自然に学校に足が向くようになっている。 | 次年度から不登校支援員がつくとアナウンスされた。小学校では大人の目が足りないので一人増えるだけでも助かるのでは。不登校児を抱えている保護者にもアピールできそう。悩んでいる保護者が前向きになれるような手助けができれば。 | 不登校支援員についてはわからないことが多いため、現状では具体的な運用については未定。次年度に向けて、旧コンピュータールームを整備し、教室に入りにくい児童が個別に学習できるような空間にしたい。また、今年度効果があった、朝から児童への働きかけは担任や総務を中心に続けていきたい。 |
| | ③教職員の業務改善 | 大規模校で職員数も多い本校の特徴を生かした業務の整理を行う。退勤時間を意識した計画的な仕事を心がける。 | 3 | 会議や仕事面では、現場で既に削減できる部分が無いほどまで業務改革が進んでいる。退勤時間を意識し、平日20時、エコデー19時の意識が浸透している。 | 持ち帰って仕事をしているのでは意味がない。職員間で雑談をしている時間も大切にしてもらいたい。そういった時間が職員間の仲の良さを深めたり児童理解に役立ったりする部分もある。業務改善には学校園だけではなく、市教委側の対応が大切ではないか。 | 転任してきた職員が、前任校で行っていた効果ある取り組みを参考にすることができた。次年度も、良いものは積極的に導入できるようにしたい。退勤時間については意識できる文化が根付いてきているので今後も大切にしていきたい。 |
| | ④「すぐ-る」の活用、ホームページにおける情報発信 | 学校ホームページの頻繁な更新を行う（週3回の更新を目安）。読むだけの案内は「すぐーる」での発信に切り替える。 | 4 | 学年だけでなく、校長自らHPで積極的な情報発信を行っている。学年だよりのような読むだけのものは積極的に「すぐーる」での配信とし、内容も簡略化した。 | 学校ホームページに地域のコーナー（ページ）があってもいいのかもしれない。地域での道路工事情報（登下校時に注意）などを載せることでより身近なものになる。 | 学校ホームページは頻繁な更新を続けていく。今後も「読むだけの手紙」は『すぐーる』での発信を基本としていく。学校だよりは行事予定があり、冷蔵庫等に貼って使用することを考えて紙ベースで行いたい。個人面談等の希望調査も『すぐーる』で行えるようにしていきたい。 |
| | ⑤学校生活のルールや決まり（校則など）について | 「いぶきっ子のくらし」について、児童の様子や教育評価で出た意見を参考に見直しを全職員で行う。 | 4 | 教育評価での意見を参考に、生徒指導部を中心に文言を含めた見直しを実施した。「いぶきっ子のくらし」は普段からの指導内容に準じており、児童にとってもわかりやすいと考える。 | 学校生活がスムーズに送れるのであれば、それが一番望ましい。児童個人に合わせた柔軟な対応は続けてほしい。 | 今後も教育評価での意見を参考に、生徒指導部を中心とした文言を含めた見直しを実施していく。学校の特性上、近隣校とも連絡を取り合い、必要に応じて足並みを揃えるべきところは揃えたい。 |

【評点】４：十分達成できた　３：おおむね達成できた　２：どちらかと言えば課題がある　１：課題がある